

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 4 3	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol screening scores and risk of hospitalizations for GI conditions in men. 男性における飲酒に関するスクリーニングのスコアと腹部疾患による入院リスク	
執筆者	
Au DH, Kivlahan DR, Bryson CL, Blough D, Bradley KA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2007 Mar;31(3):443-51.	
キーワード	
アルコール依存症、スクリーニング、疫学、出血、膵炎、肝炎	
要 旨	
<p>目的:</p> <p>不適切な飲酒が肝疾患、上部消化管出血、膵炎を起こすことが知られているが、質問紙によるスクリーニングで入院のリスクを発見できるかは知られていない。そこでアルコールによる腹部疾患の入院リスクとスクリーニングスコアとの関係を分析した。</p> <p>方法:</p> <p>7つの退役軍人病院に外来通院している男性患者のうち質問紙の返信のあった者を対象とした前向きコホート研究を行った。CAGE 質問紙(0-4点)とアルコール使用障害識別テスト Alcohol Use Disorders Identification Test-Consumption questions(AUDIT-C;0-12点)を郵送した。主な指標を「腹部疾患による入院」とした。これは退院時の主診断が肝疾患、上部消化管出血、膵炎であったものである。</p> <p>結果:</p> <p>31,311人を追跡(追跡期間の中央値は3.75年間)し、CAGEスコア≥ 2点またはAUDIT-Cスコア≥ 6点で有意に腹部疾患の入院リスクが高かった。調整ハザード比(95%信頼区間)はそれぞれ、CAGEスコア2点で1.6(1.2-2.0)、CAGEスコア4点で1.7(1.4-2.2)、AUDIT-Cスコア6-7点で1.4(1.01-2.0)、AUDIT-Cスコア10-12点で2.7(1.9-3.7)であった。さらに、前年に飲酒していた50歳以下の層で最も強い相関が見られた。</p> <p>結論:</p> <p>簡潔な質問紙によるスクリーニングがアルコールによる腹部疾患の入院リスクの発見に有用であると示唆された。</p>	